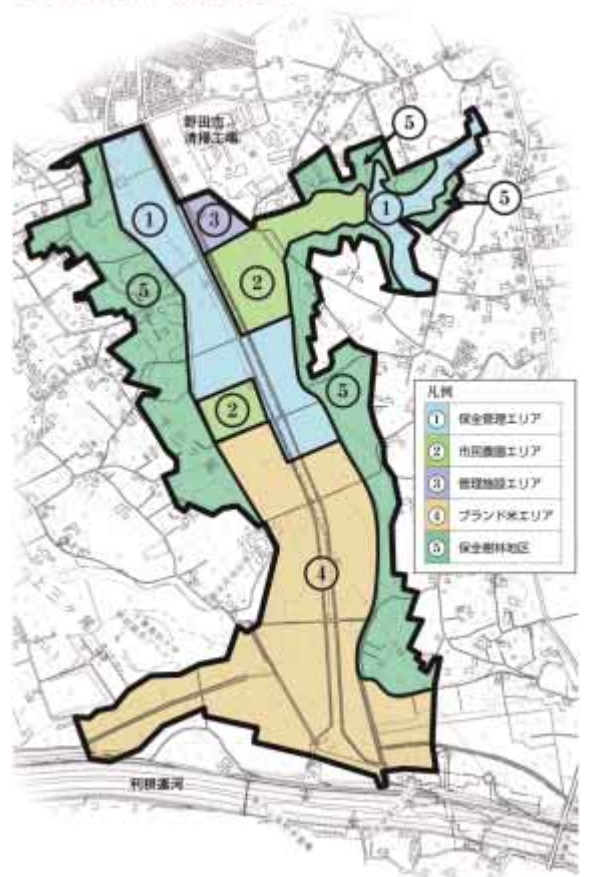


江川地区ビオトープ整備計画図



ホタルが飛び交う田んぼで

米作りを楽しみましょう

株式会社野田自然共生ファーム 常務取締役 木全敏夫さん



江川地区の谷津田は耕作放棄されて20数年が経ち、復田作業には多くの苦労が付きまといました。「まずは水路やあぜ道づくりなどの土木作業から始まったのですが、もとも泥が多く、作業機械も沈んでしまうほど。除草作業は農薬を使わず、すべて人の手で刈り取っています。広すぎてなかなか手が回らなく、刈る端から伸びてきてしまします。こつこつやるしかありません」

こうした皆さんの努力によって、荒れ地は次第に水田の姿を取り戻していききました。「景観が良いので市民の散歩コースになり、カエルやメダカ、ホタルなどもすごく増えました。市民農園では、自然の中で暮らす生き物の姿に触れたり、ザリガニ釣りや笹舟流しなど昔の遊びも体験できます。何より、泥んこになって遊ぶことができる機会は、今では非常に貴重ではないでしょうか」

市民農園が本格スタート

水田型市民農園は、減農薬や有機肥料による昔ながらの米作りをコンセプトに、平成21年4月にオ



刈り取った稲はみんなでていねいに「天日干し」しました

オープンすることになりました。オープンに先がけて平成20年12月、一般公募により利用者を募集したところ、市内外から応募があり、約1か月間で260区画がすべて埋まるほどの人気となりました。

利用条件は田植え、草取り（2回）、自然観察会、稲刈りという5日間（5コマ）のうち2日間（2コマ）以上参加することです。

また、利用料金は3千円（4歳以上小学生以下半額）で、1区画あたり玄米5キロを保証します。費用の一部は江川地区の自然環境保護に役立てられます。

今後は4月下旬の田植えを始めとするさまざまな農作業に、ホタル鑑賞会などのイベントも織り交ぜつつ、自然と共生した昔ながらの農業を次世代に継承するための取り組みをしていきます。